

事業報告書

2021年度の総括

2021 年度は、前年度より引き続きコロナ感染症拡大に伴う影響が大きく、本協議会の事業に大きな影響を受け、本来の事業活動ができない状況下に置かれていましたが、Web を可能な限り活用する新たな試みが功を奏し、従来にも増して充実した対応及び活動が出来ましたことを報告させていただきます。

まず、本協議会が NGO/NPO のためのプラットフォームとしての役割を全うするため、会員との連携及び情報交換する機会を増やし、会員をサポートする役割を果たすべく改革に継続して取り組んでまいりました。本年度は、さらに Web での情報交換の機会を増やすため、会員に対する双方向の情報の受発信、メールマガジン等での情報の配信サポート業務を強化しました。特にメールマガジンについては、会員の情報も含めて 17 回の配信を実施いたしました。また同時に Twitter 及び Facebook 等の SNS を有効に活用しながら、会員のイベント情報等を配信し、会員相互の情報交換も含めた関係改善を図りました。今後とも継続して会員サービスに努めてまいります。

本協議会が事務局機能を担う「ワン・ワールド・フェスティバル」は、コロナ禍により昨年に引き続き Web での開催を余儀なくされました。今回の特徴は、Web でのオンライン配信プログラムとライブ配信プログラムとがミックスしたハイブリット開催になったことです。ライブ配信(2 月 12 日(土)、13 日(日))は、箕面市の勝尾寺の境内をお借りし、コロナ感染予防に配慮し実施されたものです。

プログラムの内容も多彩で、関係者のご挨拶に始まり「企業と NGO/NPO との協働は可能か」をテーマに SDGs 交流ひろばのシンポジウムの開催、箕面市の 0100(ゼロヒャク)プロジェクトの紹介、動画コンテストの受賞作品の発表と各賞の表彰、三木実行委員長とアフガニスタン在住の安井氏とのインタビュー形式による現地のレポート、日本の伝統文化を活かした地域活性化の対談、フィリピンのストリートファミリーの現況の紹介レポート、関西テレビ主催による「再生可能エネルギーでまちも再生」のシンポジウム、高校生が企業の SDGs の取り組みを調査し評価することでアワードを決める高校生 SDGs アワード 2022 の実施等盛りだくさんの内容となりました。

以上のプログラムは特設サイトを立ち上げ、2 月 1 日(火)～2 月 11 日(金)の先行配信、2 月 12 日(土)～2 月 13 日(日)のライブ配信 & オンラインイベント、2 月 14 日(月)～2 月 28 日(月)の継続配信とし配信され、64,000 回数を超える視聴数を獲得することができました。

今回目を引くプログラムとして、オンラインキッチンが挙げられます。食の本場フランス料理のレシピもフランス総領事館のご協力で動画を出展し、また、他の国の領事館からも積極的に協力をいただき、国際色豊かなインターナショナル オンラインキッチンとなりました。

本協議会は、ワン・ワールド・フェスティバルの事務局としてプラットフォーム的な役割を果たすことで、今後多様なセクターとのコンセンサス及びコラボレーションを重ねながら、2030 年のアジェンダ達成のために活動を継続して参ります。

多文化共生事業「こどもプラザ」は、コロナ感染症拡大に伴う影響を年間通じて受けましたが、まん延防止等重点措置の発出時は ZOOM で開催し、解除されたときは対面で対応するという、臨機応変に対応することで、1 年間継続した運営をすることができました。Web での開催の利点を活かし、コロナ感染症拡大のため母国へ一時帰国したこどもたちも、ZOOM での日本語の学習に継続して参加することができました。

学校、行政等の通知が読めない、理解できない保護者も多く、こどものためにも保護者のサポートが重要になってきていますので、引き続き親子で学ぶ日本語サポート事業を継続してまいります。

こどもプラザは、こどもたちが無理なく学校の授業に慣れることを支援し、心の安定をもたらす「場」(居場所)としての役割を担い、さらに保護者が抱えている問題等を気軽に相談できるプラットフォームの役割を同時に果たすことが求められています。

事業資金調達のため行政等の助成金獲得に力を入れ、2020 年度、2021 年度、2022 年度の 3 年連続で大阪市の市民活動推進助成事業に採択され、また、2022 年度は積水ハウス(株)のこども基金に新たに採択されています。助成金を有効に活用しながら、引き続きこの事業の充実を図り、こどもの日本語習得のサポート、母親の日本語習得のサポート及び日本での生活情報のプラットフォーム的な役割も含めて対応して参ります。

1. NGO/NPO 間の連携促進事業(会員向け事業)

会員数＝正会 35 団体、賛助会員(団体)0 団体、賛助会員(個人)4 名
(2022 年 3 月 31 日現在)

＊団体名は本報告書末に一覧表を掲載

(1)会員サービスの充実

〔内 容〕 会員間の情報交換、経験の共有を図るとともに、会員それぞれが有する専門性や経験情報・人材を活かすように連携や協働の促進に努めました。

会員名簿の発行

発行部数 50 部

配布先 会員団体

(2)会員への情報提供と会員活動への広報協力

〔内 容〕 ① 会員への情報提供

- ・会員からの問い合わせについて、各種助成金情報や会員団体による主催事業情報、NPO 支援に関する情報発信をホームページにアップし、Web で配信しました。
- ・本年度はメールマガジン配信を17回実施することで、会員間の情報の共有、また会員以外の団体等に活動内容を配信することができました。
- ・ワン・ワールド・フェスティバル「Online Festival」の情報配信により、会員以外の NGO/NPO の活動情報を共有することができました。

② ホームページ・SNS による情報発信

- ・情報発信方法として、ホームページ掲示板からイベント情報、ボランティア情報、求人情報、助成金公募などの情報を掲載しました。
- ・ホームページの掲載内容を、Facebook、Twitter から配信し、多くのフォロワーを獲得することが出来ました。



(3) 会員と企業や団体の連携による事業

- ① 会員が主催するイベント等で、運営のサポートの一環として、HP 及び SNS にて広報連携することができました。
- ② 会員との連携セミナーとして、ワン・ワールド・フェスティバルにおけるセミナープログラムでの連携及び会員向けの講演会(関西万博の現況について)を実施することができました。
- ③ 会員の自主活動事業の協働支援として、活動状況を効果的に広報するため、当協議会が配信するメールマガジンにて紹介し、広報サポートを実施しました。

2. NGO/NPO と多分野の団体、他機関との連携促進事業

● 第 29 回ワン・ワールド・フェスティバル「Online Festival」

本協議会が事務局を担うこのイベントは、第 1 回から第 27 回まで大阪市内の会場で開催されていましたが、一昨年の2月以降新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、イベントの開催が制限され、昨年に引き続きオンラインでの開催となりました。

WEB での 2 回目の開催となりましたが、実行委員会のメンバーの方々、行政等の関係者の方々、関西領事団のメンバーの方々、大学生、高校生の方々の積極的なご支援により、2月1日(月)～2月28日(月)までの 28 日間という長い期間の開催となりましたが、成功裏に閉幕することができました。

今回の新しい試みとして、箕面市の勝尾寺会場から 2 日間のライブ配信を実施したことです。ライブ配信では、アフガニスタン、フィリピン、アメリカ、エジプトとリアルタイムで繋がり、グローバルな広がりのある展開によって、リアルタイムで情報を配信することができました。また同様に、オンラインイベントとして開催されたやさしい日本語講座等の 5 イベントは、参加希望者に事前に URL を発行し、当日は事前申込制イベントとして開催されたものですが、各プログラムともに多くの参加者を募ることができました。

また、全体的には、参加団体総数 110 団体(前回 90 団体)、参加プログラム総数 163(前回 119)プログラムで昨年よりもより多くの団体等が参加し、内容も充実した構成となりました。特に、オンラインキッチン是在京都フランス領事館等も参加し、世界各国の料理レシピが紹介され、視聴者には人気のプログラムとなりました。

今回の特徴として挙げられるのは、高校生及び大学生・専門学校生が、様々なプログラムに参加していることです。SDGs アワードでは高校生の視点で各企業・団体の SDGs の活動を発信し、SDGs 交流ひろばのシンポジウムでは大学生が企業へ鋭い質問をしながらディスカッションする。動画コンテストでは高校生が自ら制作した作品を応募しています。この様に高校生、大学生の若者層が積極的に参加することでイベントは活性化されますので、若者層が参加できるプログラムを企画し、今後も継続して協働することが望めます。



【開催概要】

【開催日】 2022 年 2 月 1 日(火)～2 月 28 日(月)

○先行配信:2 月 1 日～2 月 11 日(オンラインブース、オンラインセミナー、オンラインステージ、オンラインキッチン、オンラインスポーツ、動画コンテスト応募作品、SDGs 交流ひろば、高校生 SDGs アワード、動画制作セミナー、スポンサーチャンネルを先行配信)

○継続配信:2 月 14 日～2 月 28 日(すべてのコンテンツを配信)

○ライブ配信&オンラインイベント(事前申込制):2 月 12 日～2 月 13 日

【場 所】 ワン・ワールド・フェスティバル特設サイト

【視聴者数】 約 65,000 回数

【参加団体】 110 団体

【プログラム数】 163 プログラム(9 コンテンツ&163 プログラム)

【実施方法】 実行委員会形式

【協力団体】 関西テレビ放送(株)

【共催団体】 (一財)大阪市コミュニティ協会 北区支部協議会

【協賛団体】

(株)新井組、イワサ(株)、岩谷産業(株)、(株)ウィザス(第一ゼミナール、第一学院高等学校)、(株)ザール学園、(一社)大阪青年会議所、大阪府生活協同組合連合会、(株)大塚商会、音羽電機工業(株)、カンサイ建装工業(株)、近畿労働金庫、(株)クボタ、サラヤ(株)、(宗)真如苑、積水ハウス(株)、大日本印刷(株)、大日本除虫菊(株)、(株)ダシースファクトリー、南海電気鉄道(株)、新居合同税理士事務所、(一財)日本国際協力センター、日本労働組合総連合会大阪府連合会、阪急阪神ホールディングス(株)、日立造船(株)、(株)ベネシード、三木秀夫法律事務所、ミナミまち育てネットワーク、(株)リゾートライフ

【運営協力】

(公財)京都市国際交流協会、(株)ディーボックス、(株)関西テレビハッツ、(株)阪神インダストリアルテクノロジー(HIT スクール)、カンカラカン(株)、(株)エキスプレス

【後援団体】

外務省、総務省、文部科学省、経済産業省、環境省、関西領事団、大阪府、大阪市、堺市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、大阪府 PTA 協議会、大阪市 PTA 協議会、堺市 PTA 協議会、大阪商工会議所、(公社)関西経済連合会、(一社)関西経済同友会、(公財)関西・大阪 21 世紀協会、(公財)大阪観光局、(公社)2025 年日本国際博覧会協会、(公財)ワールドマスタースゲーム 2021 関西組織委員会、(公社)大阪府看護協会、大阪弁護士会、日本労働組合総連合会大阪府連合会、(一財)自治体国際化協会、(公社)日本ユネスコ協会連盟、(公財)ユネスコ・アジア文化センター、関西SDGsプラットフォーム、(公財)大学コンソーシアム京都、(特活)大学コンソーシアム大阪、(特活)南大阪地域大学コンソーシアム、(公社)日本 WHO 協会、(一財)大阪教育文化振興財団 キッズプラザ大阪、大阪市北区商店会総連合会、天神橋筋商店会、天神橋筋三丁目商店街振興組合、ミナミまち育てネットワーク



〔準備活動〕

① 実行委員会の結成

＊2021年5月14日に第1回実行委員会を開催し、下記の団体で実行委員会を結成した。

＊構成団体：(独)国際協力機構関西センター、(独)国際交流基金関西国際センター、(公社)アジア協会アジア友の会、(公社)アムネスティ・インターナショナル日本・関西連絡会、(公財)オイスカ 関西支部、(一社)大阪青年会議所、(一社)南太平洋協会、(認活)大阪 NPO センター、(特活)AWPS学生スタッフチーム、(特活)関西国際交流団体協議会
(全 10 団体)

② 実行委員会の開催

＊実行委員会は5月から毎月開催し、イベント開催月の前月まで合計9回開催しました。

2021年5月14日、6月18日、7月29日、8月30日、9月27日、10月21日、
11月26日、12月23日、2022年1月21日

＊9月27日の実行委員会で[Web]での開催を決定しました。

③ 出展団体の募集開始

＊オンラインブース、オンラインプログラム、ステージの参加団体の募集

2021年9月1日から開始

＊ワンフェス動画コンテストの募集 2021年8月23日から開始

＊SDGs 交流ひろばの募集 2021年9月1日から開始

④ Web での開催に伴い、各団体の出展は「動画」での出展となりますが、動画制作に不得手な団体も多いため、前回に引き続き、今回も関西テレビ放送株のご協力を頂き、動画制作セミナーをZOOMにて開催いたしました。

＊セミナー1回目は、2021年9月23日 13:30～14:30 開催。「撮影編】報道カメラマンから学ぶ、撮影の仕方」

＊セミナー2回目は、2021年9月23日 14:45～15:45 開催。「【企画編】現役の番組プロデューサー/企画を学ぶ、印象に残る動画の作り方」

〔プログラム実施内容〕

① オンラインブース (29団体、35 プログラム)

＊NGO／NPO、ODA 機関、教育機関等29団体が参加し、独自に制作したビデオで活動状況及び貴重な情報を配信しました。

② オンラインセミナー(10 団体、18 プログラム)

＊国際協力や国際交流の大切さ、SDGs の目標達成に向けた活動をビデオに収録し、また社会問題を取り上げたシンポジウムを視聴者向けに配信しました。

③ オンラインステージ(6 団体、11プログラム)

* 国際性豊かな各国の民族音楽、民族舞踊を動画に収録して配信するのがオンラインステージです。今回は、メキシコ、グアテマラ、ニカラグア、カンボジア、インドネシアの民族舞踊、民族音楽の動画が出展されました。

④ オンラインキッチン(13 団体、26 プログラム)

* 視聴者が作りたくなるレシピとして、今回は 13 か国(モンゴル、ベトナム、中国、アンゴラ、メキシコ、イタリア、フランス、カンボジア、ニカラグア、コロンビア、トンガ、フランス、インド)の料理動画が出展されました。まさに、インターナショナル・オンラインキッチンプログラムとなりました。

⑤ オンラインスポーツ(7 団体、8 プログラム)

* 国際交流の一環として「スポーツ」の役割は大変重要ですが、同様に SDGs の目標達成にもスポーツは重要な役割を担っています。「みんなでスポーツ」では、世界の珍しいスポーツを動画で紹介するもので、今回参加は、スウェーデン、オランダ、メキシコ、タイ等のスポーツでした。

⑥ SDGs 高校生アワード(4 グループ、4 プログラム)

* SDGs に関心を持つ有志の高校生が、高校生の視点で各企業・団体 SDGs の活動を発信することで対象企業の製品・サービスが広く認知されることを目的に開催されました。今回のアワードには、9 グループがエントリーされ、最終審査に残った 4 グループがそれぞれ発表しました。高校生 SDGs アワード 2022 は、「こおろぎラーメン」が受賞されました。

⑦ SDGs 交流ひろば(11 団体、14 プログラム)

* 企業が積極的に取り組んでいる SDGs の活動を、「SDGs 交流ひろば」のサイトから広く配信することで、参加企業間の交流も含め、多種多様なアクターへの動機づけとなることが期待されます。また今回はライブ配信として「企業の SDGs の活動の内容及び社会貢献活動における NGO/NPO との協働の現況と将来性について」をテーマにシンポジウムを開催しました。「SDGs交流ひろば」へ参加した 3 企業に SDGs の取り組みの講演をしていただき、その後パネルディスカッションとして「SDGs の目標達成に向けた企業の貢献及び将来の課題について」と題し、大学生と企業の代表者とのセッションを実施しました。

⑧ ワンフェス動画コンテスト(21 グループ、21 プログラム)

* 動画コンテストには、学生の 13 作品、一般の 8 作品が参加しました。前回に引き続き 2 回目の開催となります。SDGs の理念や国際協力、国際交流への理解を深めるツールとしての役割を果たしています。

⑨ スポンサーチャンネル(9 団体、22 プログラム)

* ワン・ワールド・フェスティバルを支援していただく企業の CM や CSR 活動を配信するものです。

「SDGs 交流ひろば」参加企の動画



「オンラインキッチン」イタリア料理動画



3. 国際交流・国際協力・市民活動に関する情報収集と提供事業

(1) NGO／NPO に関する情報の収集・提供事業

〔目 的〕 国際交流・国際協力に関する多様な情報収集と提供を行うものです。

〔内 容〕 関係機関からの情報を整理し、ホームページ上で「新着情報」として取り上げ、タイムリーに配信することができました。また、PICK UP 情報として、イベントの情報を詳しく紹介するコーナーも設け、情報発信の充実を図りました。各団体からの掲載の依頼なども新着情報と併せてメールマガジンに掲載し、約 500 団体に配信を行っています。

(2) 人材育成事業

〔目 的〕

学校法人エール学園の推薦により、2 名の留学生を受け入れ、国際交流・協力を目的とした「ワン・ワールド・フェスティバル」の開催に伴う、企画、折衝、プログラムの制作の補助、イベント参加者の対応等、イベント開催の運営の実践を学ぶインターンシップを実施しました。

〔期 間〕 2021 年 10 月 1 日～2022 年 2 月 25 日

〔対 象〕 学校法人エール学園 留学生 2 名

〔内 容〕 イベント企画の内容のチェック、実行委員会における企画の承認、イベント参加団体の募集、募集のためのポスター及び募集ツールの作成、過去に参加された団体等への募集要項の発送、応募者受付及びのリストの作成、イベント告知のツールの作成、チラシの作成等運営について実践的に学べる内容となっています。特に、イベントコンテンツを制作するために、関西領事団のメンバー総領事館との交渉及び折衝、関西領事団団長への訪問等に参加し、国際交流を実践的に学ぶことができました。

(3) 講師派遣事業

〔目 的〕

当協議会監事の近畿大学経営学部経営学科吉田忠彦教授のゼミ生と当協議会の職員との意見交換会を実施しました。目的は、「公共・非営利組織経営論」のゼミの NPO 団体の活動内容・仕事の内容等を NPO 職員からの説明を受け、実体験をするものでした。

〔期 間〕 2021 年 10 月 11 日(月)14:00～16:00

〔対 象〕 近畿大学経営学部経営学科吉田忠彦教授のゼミ生 14 名

〔内 容〕 当協議会の業務内容の説明、OWF の開催内容、こどもプラザの業務内容、NPO の広報戦略等の説明後意見交換を行いました。また、当協議会職員がなぜ NPO の仕事を選択したのか等 NPO を応募した動機についても意見交換を行いました。当協会の留学生のインターン生、当協議会のインド籍の職員も参加し、グローバルな意見交換となりました。

4. 開発教育・市民意識啓発と活動への参加促進事業

大学生、高校生及び市民に向け、SDGs の目標達成を目指した活動の一環として、今回は ZOOM で開催しました「SDGs 交流ひろば」のシンポジウムに大学生を招待し、企業とのセッションを行う等、ワン・ワー

ルド・フェスティバルの次世代のリーダーを育てる活動を実施しました。また、コアボランティアのリーダーを育成するため、ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会にコアボランティアも参加し、実行委員会で発言及び提案等を積極的にすることで、社会的インパクトのある事業へと変革を行っているところです。

5. NGO／NPO の基盤強化事業

(1) 多文化共生事業

① こどもプラザ

〔目的〕

外国にルーツのあるこどもたちが直面している困難な問題、1) 日本語の習得と学校での授業についていけない問題、2) 日本文化に馴染めないこどもたちの居場所づくりの問題、を解決するための施設として「こどもプラザ」を開設し、困難に直面しているこどもたちの支援活動を行っています。また、同時に学校の通知等を理解できないために、こどもサポートができない保護者(特に母親)の日本語の習得及び日常生活等での悩みのサポートを行っています。将来的には、大阪市内を中心に必要と思われる地域に拠点を立ち上げ、他団体とも連携を取りながら順次拡大してゆく予定です。

〔事業実施期間〕

令和3年4月1日～令和4年3月31日 毎週水曜日 17時～19時

〔実施回数及び参加人数〕

・こどもの日本語習得実施回数 47回 延べ参加人数 208人
・保護者の日本語習得実施回数 47回 延べ参加人数 172人

〔事業実施内容〕

※こどもと保護者とは別々の部屋で指導を行っています。

a) 正しい日本語習得の支援

・元教員等のボランティアによる日本語で学ぶ学習の支援及び指導

b) 宿題の指導(学校の宿題をサポート)

・算数、国語の指導経験者が指導。
・宿題を進める過程で日本語の習得も同時に指導。

c) こどもとの心のふれあいタイム(日本の習慣及び文化を教える目的で実施しています。)

・毎回最初の10分～15分間は、学校での活動及び出来事を中心に日本語で会話する時間を設けています。
・この会話の中で、学校での疎外感、いじめ等がないか用心深く会話を進めていくようにしています。

〔参考：受益者の声〕

(こどもたちの声)

・一番楽しい場所。
・何でも聞いてくれる先生と話すのが好き。
・遊びタイムのけん玉遊びが好き。等

(母親の声)

- ・学校の通知を解りやすく説明してくれる。
- ・日本の習慣・行事等を楽しく説明してくれるので、自分も積極的に参加してみようと思う。
- ・家族全員で学べるので大変ありがたい。等

※昨年に引き続き、2021 年 4 月～2022 年 3 月までに実施する大阪市の地域課題・社会課題の解決を目的とする公益的な事業として、「こどもプラザ」が大阪市市民活動推進助成事業の助成金の交付受け、事業を推進して参りました。また、次年度(2022 年度)も大阪市の助成金 1,000,000 円の交付が確定しています。

※今回新たに企業の助成金「積水ハウスマッチングプログラム 2022 年度助成金 850,000 円」の交付が確定しました。



6. 調査研究・提言事業

国際交流・協力の連合体／中間支援組織としての経験や情報、及び NPO 法人としての視点を活かすとともに当該関係者の実情や声を施策に反映できるように努め、委員会等で得られた情報を事業に活用することで、その貴重な情報を関係者にフィードバックするよう努めて参りました。特にこどもプラザの外国にルーツのあるこどもたちの受入状況及び日本語習得の進捗情報等については、社会的な問題を解決するための有用な情報と考えますので、今後も継続して大阪市教育委員会事務局と共有することにしています。

「外国人の住みやすい大阪」を考える関係機関等連絡会議(事務局＝大阪国際交流センター)が主催した外国人向けの相談会「1 日インフォメーションサービス」に、当協議会も主催者メンバーとして参加し、相談のため会場に訪れた外国人の受付及び誘導を行いました。この事業は、次年度も継続する予定です。

関西ボランティアネットワーク会議(KIV-NET)では、当協議会がメンバーとして他の参加団体とボランティアについての情報を共有しています。特に、2025 年大阪・関西万博の開催期間中には多数のボランティアが必要となるため、KIV-NET の役割が重要となり、今後どのような役割を担うかが検討されているところです。ワン・ワールド・フェスティバルのボランティアが、将来万博のボランティアとして参加することも考えられますので、今後ネットワーク会議との連携を取りながら、どのような対応ができるのかを検討して参ります。